

# 地域に根ざした支援学校の抜本的増設を 「早急に児童生徒数増に見合った 府立支援学校の新校整備を求める請願」署名

## 大阪府議会に3万3355筆を提出

### 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
(TEL) 6765-8904  
(FAX) 6765-8905



署名手交する保護者

2月18日、大阪の障害児教育をよくする会(以下、よくする会)、大阪障害児者を守る会、障害者(児)を守る全大阪連絡協議会、全国障害者問題研究会大阪支部で構成する大阪障害児教育運動連絡会は、「早急に児童生徒数増に見合った府立支援学校の新校整備を求める請願」署名を、大阪府議会事務局に手交し、府議会各会派への要請行動にとりくみました。提出・要請行動には、各地域「よくする会」や障害児者団体の代表など、9人が参加しました。当日までに集約された署名は3万3355筆に達しました。

#### 地域に根ざした支援学校建設、 当たり前の教育条件整備を

署名手交にあたり、よくする会の西面事務局長は、2018年6月「大阪府立支援学校における教育条件整備を求める緊急アピール」を発表以降、大阪障害児教育運動連絡会としてとりくんでいる「早急に児童生徒数増に見合った府立支援学校の新校整備を求める請願」署名について報告しました。2年目となる2019年度も街



共感とつながりの中で広がった署名

頭署名宣伝行動など、さまざまなところで府立支援学校の現状と府教委が発表した「府立支援学校における知的障がい児童生徒の教育環境の充実に向けた基本方針」の問題点について語り、「支援学校が大変なことになっているとは知らなかった」「障害のある子どもたちへの人権侵害だ」「過大・過密問題の解消には、学校を建てるしかない」など共感の声が寄せられ、つながりの中で署名が広がったことを

#### すべての子どもに学ぶ権利の保障を

同日午後、大阪の障害児教育をよくする会、大阪府立高校30人学級をすすめる会、大阪府立高校30人学級をすすめる会、大阪私学助成をすすめる会、子どもと教育・文化を守る大阪府民会議の5団体は「すべての子どもたちにゆ

紹介し、地域に根ざした支援学校の抜本的増設、支援学校の教育条件整備を求めました。参加者からは、「大阪の障害のある子どもたちが、自分の育った地域の支援学校に通うことができるよう、適正規模の支援学校を適正な数建ててください」「子どもたちは四條畷校がずっと残るよう『本校化』してほしいと願っています」「北河内の支援学校はどれも過大・過密の状況。枚方支援が建ったから終わりではなく、必要などころに実態に合わせた支援学校を新設してほしい」「支援学校建設や地域の学校への支援など、大阪府全体としてどこに住んでいる障害児もちゃんと教育を受けることができる環境を整えてほしい」「長時間通学をしている通学区域割の変更ではなく、地域に根ざした支援学校を建ててください」などが語られました。

各会派への要請行動では、参加者が子どもたちの教育条件整備を願う声を届け、請願の採択への協力をお願いします。

多くの教職員のみなさんに「協力をいただき、ありがとうございます」。

きとどいた教育を求める請願署名の府議会提出集会をドーンセンターで開催しました。集会後、参加者は大阪府庁内で、府議会事務局に集約した署名を手交し、引き続き府議会各会派への要請行動にとりくみました。当日までに集約された署名は、17万6163筆でした。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



人間は「言葉」を使う唯一の生き物だ。「話す」「聞く」「読む」「書く」「考える」ときに、言葉は不可欠である。「コミュニケーション」においても言葉の果たす役割は大きく、何気なく使う言葉が、相手を幸せにしたり不幸にさせたりしてしまう。だからこそ双方にとって心地良い言葉を使いたいものだ。

また、言葉には「量語」というものがあり、同じ音や言葉を繰り返して使うことで、事物の複数を示したり、動作や作用の反復・継続などを表したり、その言葉の意味を強めたりすることができるのも実に面白い。大阪の文化ともいえる「ぼちぼち」は、その言葉の響きや幅広い意味合い、相手を包みこむような雰囲気や魅力的な量語のひとつである。

もうひとつ大好きな量語は、「いいからいいから」だ。この言葉は、2月25日生まれ大阪府藤井寺市の絵本作家・長谷川義史さんの絵本「いいからいいから」(絵本館)の中で、突然やってきたカミナリの親子をもてなすおらかなおじいちゃんが何度か語る口癖である。おじいちゃんの言葉には、ゆつたりとした時間や温かさがあり、つい笑顔がこぼれてくる。「いいからいいから」は、長谷川さん曰く「せいかいへいわにするほんきのあいことば」。諍いや争いをなくすまさに「愛言葉」である。

学校における教職員の働き方改革は一向に改善されず、多忙化に拍車がかかる今日。余裕のなさから子どもたちや同僚にギスギスした言葉を無意識に投げつけている「自分」がいるかもしれない。そんなときこそ、「いいからいいから」と意識して言うように心がけてみたいと思う。

# 仲間とともに青春しよう!

## 自分らしく生き生きと学び、成長する青年たち

### 第7回おおさか学びの場交流会

1月25日(土)、生野区民センターにて「第7回おおさか学びの場交流会」が行われました。障害のある青年は、高等部を卒業するとほとんどがすぐに社会に出る現状です。しかし、障害があるからこそ、ゆっくりに時間をかけて様々な体験を積み、人生を豊かに生きるための土台をつくらうと、福祉事業での「学びの作業所」や「福祉型専攻科」が広がっています。今回の交流会は、学びの場に通う青年同士の交流や、実践の交流と発信、親のねがいや運動の交流を目的として実施され、多くの参加者が交流を深めました。

#### 舞台上で輝く青年たち

午前の全体会は、府内の学びの場に通う青年たちのダンスや漫才、群読、劇などの舞台発表で始まりまし



出演者全員でのダンス

続いてのファッションショーでは、参加したいと希望した青年たちが、自分で選んだお気に入りの洋服と小物を身に付け、プロの方にヘアメイクをしてもらい、ランウェイを闊歩してポーズを決めました。胸を張ってポーズを決める青年や、緊張感を漂わせ淡々と歩く青年、友だちと励まし合いながら舞台上上がるペアもあり、それぞれの自分らしさが輝く楽しいショーでした。最後は出演者全員でのダンスで締めくくられ、熱気ある舞台で目一杯青春する姿に、客席からは大きな拍手が送られました。

#### 安心して自分を出せる場で、じっくり学ぶ意義



分科会の様子

午後は、実践報告と家族向けグループトーク、青年セミナーに分かれて交流しました。

第1分科会では、東大阪の「リープキャンパスひびき(自立訓練)」から19才の学生について報告されました。中学時代から自信を

なくし、無理をしてしんどいと言えない姿から、ゆつたりとした取り組みの中で授業の面白さや自分のよさに気付きはじめ、友だちと認め合い、生き生きと過ごすようになっていく様子が語られました。リラックスして自分を出せる場所であるというなことを自分で決めることで、こんなに自信をもてるようになるのだと、あらためて職員が学んだと語られました。青年の保護者からは「子どもを自由にさせることに対して、親としては(これでいいのかわ)こわさがあった。でも自由にさせることで本人が責任をとるようになってきた」と話されました。二つ目は、住吉区の「つみき(生活訓練・

生活介護)」から、就労経験のある30代の学生についての報告でした。自分を認められず他人を許すこともできない姿から、「やりたいう、やってみよう」の気持ちを受け止め、学生たちで考えて形にしていくことを大切に組み立てていく中で、少しずつ自分の意見を出せるようになっていきました。その過程で衝突や葛藤も生まれてきましたが、スタッフといっしょに話を文字や絵におこして思いをまとめながら乗り越えていき、イライラする前にうまく回避できるようにしたり、仲間と一緒にしたいという言葉が増えたりと、おおらかに成長していく姿が報告されました。二つの報告を

もとに、学びの場でなぜこういった成長がみられるのかを参加者で話し合いました。分科会のまとめとして、プレッシャーをかけて乗り越えさせるのではなく、「できるようになりたい、やってみよう」気持ちを受け止め、「しかけて待つ、信じて待つ」という時間をしっかり保障し、仲間とともに自分の変化や成長を客観的に語り成長を喜び合う中で、ふがいない自分からまんざらでもない自分への確立がていねいに行われていることが大切ではないかということも共有しました。

障害のある青年の学びの意義について、今後も実践から学べるこういった機会を生かし、みんなで考え広げていくことが大切だと思える有意義な交流会でした。

### 全国障害児学級・学校交流集會に参加して(感想の4)

#### 職場からの9名で参加できたことが一番嬉しい!

2日目の分科会「聴覚障害児の教育実践」で中学部の近山先生が実践報告をして下さったので、

職場から9名で参加できたことが今回一番嬉しかったこと

職場の仲間と一緒に学ぶことは、こんなにも元気をもらえるのだと改めて感じました。

組合の教研は、子どもを観る眼差しを優しくあたたかくさせてくれます。子どもの願いに寄り添うことの

大切さをいつも感じさせてくれます。これからも色々な組合の教研に職場の仲間を誘って一緒に参加したいなあと思います。(生野聴覚支援学校分會 前田綾)